

Przewoźny, M. 2019. Catalogue of palaearctic Hydrophiloidea (Coleoptera). Internet version 2019-01-01. http://www.waterbeetles.eu/documents/PAL_CAT_Hydrophiloidea_2019.pdf.

佐藤正孝・吉富博之, 2018. コウチュウ目. Pp. 707-790. 川合禎次・谷田一三(編) 日本産水生昆虫第二版, 1520 pp. 東海大学出版部, 平塚.

- (嶋本習介 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(小島弘昭 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(長野宏紀 590-0117 堺市南区高倉台)

【短報】沖縄島北部におけるオキナワクビマルキコメツキの観察例

オキナワクビマルキコメツキ *Hemiops ireii* Ôhira & Makihara は 2002 年に沖縄県国頭村の天然林に設置されたマレーゼトラップで捕獲された 3 羽に基づいて 2007 年に新種記載されたコメツキムシである。クビマルキコメツキ属 *Hemiops* は中国南部から東南アジアにかけて広く分布する属であるが, Ôhira & Makihara (2007) と大平・楨原 (2008) は日本未記録属の種として分布上きわめて興味ある発見と記述している。また体長 11~12 mm と比較的大型の未知属の種がそれまで未発見であったのは, 発生期が 10 月~11 月と本科として異例に遅いことにも言及している。筆者の一人である松村は以前より本科に興味を持っていたこと, 台湾では同属の種を得ていたことなどから 10 数年前より秋期に国頭村にて採集を試みたが得ることはできなかった。大平・楨原 (2008) では原記載以降も追加があったとのことであるが近年の記録はない。

2019 年 12 月末に名護市在住の藤川浩明氏より, 服部の SNS にそれらしき種がアップロードされているとの情報が松村に入った。松村と服部は沖縄昆虫同好会に所属し面識もあったので連絡をとりあい, 本種に間違いないことを確認したので報告する。

以降, 服部の観察記録を報告する。1 頭目は 2019 年 11 月 24 日蛾の調査のため設置したライトトラップに飛来した (図 1)。2 頭目は同年 12 月 1 日夜間に岩の上に静止しているのが観察された (図 2)。いずれも観察のみなので正確には計測できていないが, 1 頭目はライトトラップ幕として使用した網戸の目と比較して体長約 12.3 mm と考えられる。また, 2 頭の観察例から推測すると, 夜間活動性が強く走光性があることが確認された。原記載の個体は 10 月 25 日~11 月 7 日の間に捕獲されたと記述されてい



図 1. ライトトラップに飛来したオキナワクビマルキコメツキ。



図 2. 夜間岩上に静止中の本種 (服部撮影)。

るが, 今回 12 月 1 日に観察されたことから成虫は 10 月末~12 月初旬まで活動するものと考えられる。

なお, 服部は本観察例を iNaturalist にアップロードしている。

末筆ながら, 本種についての情報提供をいただいた藤川浩明氏, また本報告を勧めていただいた有本久之氏と吉富博之博士に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 大平仁夫, 楨原 寛, 2008. 日本未記録の *Hemiops* 属の新種が沖縄本島から記録. 甲虫ニュース, (162): 29-30.
Ôhira, H. & H. Makihara, 2007. A new *Hemiops*, genus new to Japan, species of Elateridae (Coleoptera) from Okinawa Island of the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of FFPRI, 6 (4): 227-230.

- (松村雅史 901-1303 島尻郡与那原町与那原 3219-9)
(服部貴昭 905-1421 国頭郡国頭村辺戸 103)

【短報】西表島からのヒメイカリゾウムシの記録と擬死行動

ヒメイカリゾウムシ *Euthycus inaequalicollis* Morimoto,